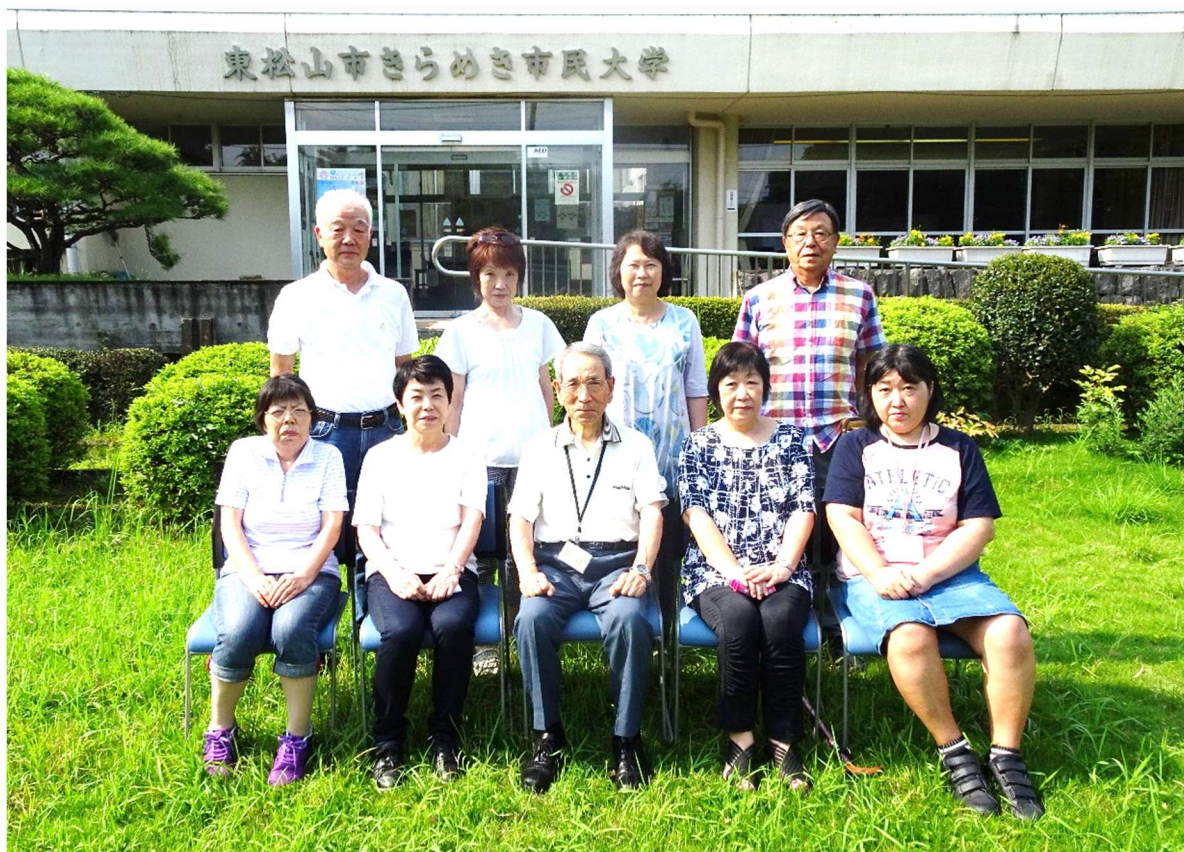


東松山市の国際交流

第17期 国際・文化学部 A 班



高田 芳恵
長谷部 春雄
対馬 えり子
小島 信江
リーダー
関口 茂
坂本 雅美
浅野 美代子
西田 勝美
長谷川 けい子

目次

- 第1章 はじめに
- 第2章 東松山市国際交流協会の事業に参加
- 第3章 小中一貫教育特認校制度
- 第4章 スリーデーマーチに見る国際交流
- 第5章 課題研究を終えて

第1章 はじめに

第1節 テーマ設定理由

2018年度、日本を訪れた外国人は3,000万人を超えました。今年(2019年)はラグビーワールドカップが日本で開催され、来年(2020年)は東京オリンピック・パラリンピックが日本で開催されます。労働人口減少に伴う人手不足を補うために、国は外国人労働者を2025年までに50万人受け入れることを決めました。

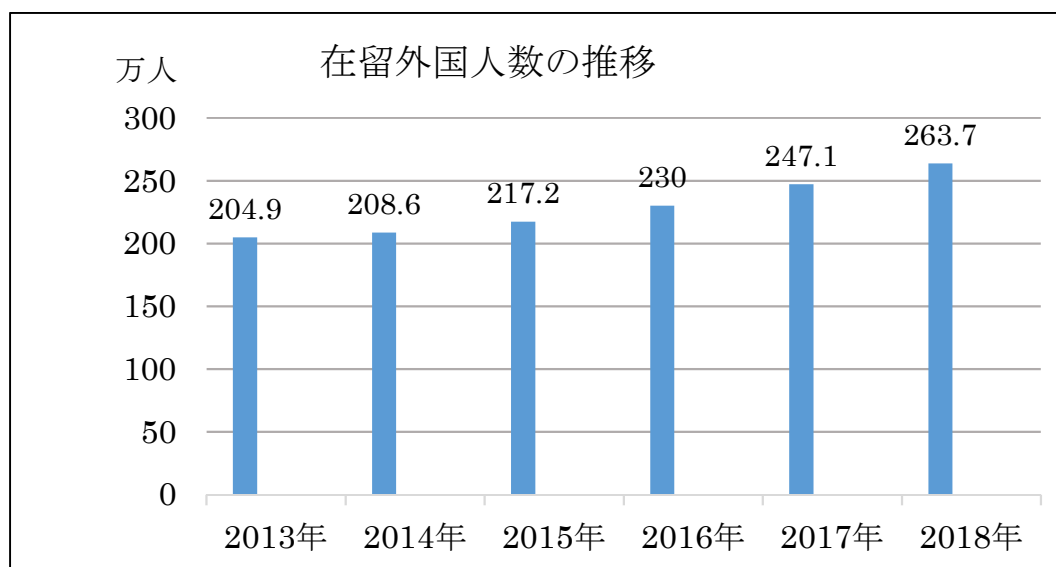
このような情勢から、今後、日本を訪れる外国人は更に増加するものと思われま。したがって、今後は東松山市でも外国人と交流する機会が次第に増えていくと見込まれます。これらの状況から、東松山市の国際交流活動の現状と今後の在り方等を調査・研究したいと思いこのテーマに設定しました。

第2節 在留外国人の実態(国際化時代の再認識)

在留外国人の全国・埼玉県・東松山市における現状を調べました。

(1) 日本で暮らす在留外国人

2018年6月末現在の日本国内で暮らす在留外国人は2,637,251人(男性1,276,317人、女性1,360,934人)であり、5年間で588,128人(男性343,706人、女性244,422人)増加しました。



国籍別では、1位・中国、2位・韓国、ベトナムが3位になりました。

(▲: 減少)

順位	国籍	人数	過去5年間の増減
1位	中国	741,486	94,346
2位	韓国・朝鮮	482,882	▲43,696
3位	ベトナム	291,494	229,563
4位	フィリピン	266,803	59,998
5位	ブラジル	196,781	74,085

(2) 埼玉県で暮らす在留外国人

2018年6月末現在の埼玉県で暮らす在留外国人は173,887人（男性85,040人、女性88,847人）であり、5年間で53,078人（男性30,723人、女性22,355人）増加しました。

国籍別では、1位・中国は不動ですが、2位・ベトナム、3位・フィリピンが韓国を上回りました。

順位	国籍	人数	過去5年間の増減
1位	中国	67,759	7,302
2位	ベトナム	20,878	15,768
3位	フィリピン	20,145	3,742
4位	韓国・朝鮮	17,311	▲456
5位	ブラジル	7,302	▲801

(3) 東松山市で暮らす在留外国人

2019年3月末現在の東松山市で暮らす在留外国人は2,277人です。

国籍別では下表のとおりです。

2014年3月末

順位	国籍	人数	順位	国籍	人数
1位	ブラジル	457	1位	ブラジル	574
2位	中国	414	2位	中国・台湾	291
3位	ベトナム	372	3位	ペルー	177
4位	フィリピン	279	4位	フィリピン	154
5位	ペルー	170	5位	韓国・朝鮮	142

このように東松山市にもたくさんの外国人が暮らしています。

第3節 活動計画

東松山市の国際交流活動を、次の3項目に大別して活動することを計画しました。

- (1) 第2章：東松山市国際交流協会の事業に参加して、実際に外国人との交流活動を通して相互理解を深める体験をする。
- (2) 第3章：桜山小学校と白山中学校の小中一貫教育特認校制度の理解を深めるため、英語授業を参観する。
- (3) 第4章：スリーデーマーチの歩みを通して、東松山市においてどのような国際交流・支援が行われたかを調べ、マーチに実際に参加しボランティア活動を知る。

第2章 東松山市国際交流協会の事業に参加

この章では東松山市国際交流協会の事業に参加して、その活動について体験・理解しました。参加した事業は次の通りです。

4月9日(火)	東松山市国際交流協会のきらめき出前講座受講
5月21日(火)	東松山市国際交流協会総会出席
6月16日(日)	外国人日本語スピーチコンテスト
6月30日(日)	日本語教室(うちわ手作り体験)
7月5日(金)	大東文化大学留学生インタビュー
7月10日(水)	ふじみの国際交流センター訪問
7月20日(土)	日本語交流タイム(ゆかた祭り)
7月27日(土)	食文化交流会(手打ちうどん)
8月16日(金)・8月23日(金)	子ども英会話

第1節 東松山市国際交流協会について(きらめき出前講座)

日時：2019年4月9日(火) 午前10時～11時30分

場所：きらめき市民大学 研修室

講師：東松山市役所 総務課 阿部主事

(1) 協会の活動

協会は市民によるボランティア団体で、住民レベルで次のような活動をしています。

- ① 身近な生活の場において国際交流・多文化共生を進めています。
- ② 異なる文化や国籍を持つ人との相互理解や友好親善を深めています。

(2) 会員数

現在の会員は、個人会員155人、法人・団体会員12団体(2019年3月31日現在)

(3) 協会設立の経過

協会設立以前、ボランティアによる外国人向けの日本語教室が開催されていました。その後、ボランティア団体から市へ国際交流事業を束ねる協会設立の要望があり、1996年度「国際交流協会検討委員会」が開催され、飯能市や鶴ヶ島市など先進地視察等を経て、1998年3月に協会設立総会が開催され設立されました。



[きらめき出前講座]



[出前講座受講者]

(4) 主な事業

協会では、「多文化共生部会」と「国際交流部会」の2つの部会を設置し、各事業では目的（前述(1)の①と②）を達成するために事業を展開しています。

事業内容として

多文化共生部会は、日本語教室、外国人日本語スピーチコンテスト、国際交流協力研修、日本語交流タイム、親子国際ネットワーク、ワンナイトステイ／ワンデイスティ、子ども英会話があります。

国際交流部会は、スリーデーマーチ、国際交流ツアー、国際交流パーティー、文化体験交流会があります。



[出前講座]

私たちは、講座受講後に協会の会員入会の申込を行い、協会の事業に参加して、実際に外国人との交流活動を通して相互理解を深める活動を計画しました。

第2節 東松山市国際交流協会総会に出席して

日時：2019年5月21日(火) 午前10時
～11時30分

場所：東松山市総合会館



[会長挨拶]

(1) 会長挨拶

会員約30人の出席により総会が開催されました。

会長から現在の会員数と、日本語教室を始めとした多くの国際交流活動が活発に行われていること、また東松山市でも最近ではアジア圏だけでなく世界中の人たちが大勢住み、外国人の姿を見ることが多くなって、今後国際交流はさらに重要視されます。

(2) 議事

議事・議案第1号～第5号（事業報告・決算報告・役員改選・事業計画・予算）の審議は円滑に行われすべて承認されました。

2018年度東松山市国際交流協会事業報告内容は以下のとおりです。



[総会風景]



[総会風景]

事業執行状況		参加者 (うち外国人)	
多 文 化 共 生 部 会	日本語教室	日曜クラス (49回実施)	受講者 1,126人
		水曜クラス (43回実施)	受講者 700人
		お花見体験	32人 (21人)
		「こどもの日」体験	22人 (9人)
		うちわ手作り体験	31人 (18人)
		吉見百穴と日本の料理	29人 (17人)
		「餅つき」体験	33人 (21人)
		日本の正月遊び体験	44人 (32人)
	外国人日本語スピーチコンテスト	外国人による日本語 スピーチコンテスト	76人 (27人)
	国際交流協力研修	気ままな世界探訪	29人
	多文化共生 ・日本語交流タイム	23回実施	受講者 92人
		お花見体験	8人 (3人)
		夏!ゆかた祭り	27人 (18人)
		みんなおいでよ THE まつり	11人 (1人)
お正月&ゆかた祭り		21人 (10人)	
子ども英会話	英会話講座 (3回実施)	112人 (3人)	
	えいごであそぼう	14人	
	ハロウィーン仮装大会	58人 (3人)	
	親子で簡単おせち	22人 (4人)	
	絵本カフェ	8人	
国 際 交 流 部 会	スリーデーマーチ	ワンポイント英会話	19人 (3人)
		ウェルカムブース展示、 通訳ボランティア	105人
	国際交流ツアー	交流バスツアー (茨城県日立方面)	44人 (21人)
		交流バスツアー (行田市)	20人 (2人)
	国際交流パーティー	アトラクション、軽食	84人 (39人)
	文化体験交流会 ・食文化交流会	ベトナム料理	23人 (8人)
		お茶で作るヘルシーしゃぶしゃぶ	15人 (2人)

2019年度も前年度と同様な事業が計画されています。

第3節 外国人日本語スピーチコンテスト

日時：2019年6月16日(日) 午後1時～5時

場所：東松山市総合会館

第20回外国人日本語スピーチコンテストが行われました。私たち国際・文化学部A班が実際に国際交流を実践した初めての活動となりました。

出場者は一般の部3人、留学生の部10人、計13人の外国人で、日本語が上手で内容のある素晴らしい4分間のスピーチでした。

1. 出身国の紹介
2. 日本での生活の感想
3. 日本語の勉強について
4. 自由テーマ

以上のテーマに沿ってスピーチが行われました。お国自慢やラオスの民族衣装を着てスピーチした人もいました。一般の部のスピーチ内容は家族で暮らしている人なので、子供たちの学校の様子や日本での日常生活の話題が中心でした。

審査の結果

総合優勝：魏 興也（ぎ・こうや、中国出身）

最優秀賞：ブィチャンアントゥエン（ベトナム出身）

優勝した魏さんのスピーチはとても心に残るものでした。生き生きとした「今を楽しむ！」をモットーとした前向きなスピーチで、潑刺とした素敵な方でした。

コンテストの審査発表後の交流ミニパーティーの席で魏さんと会話をする機会があり、後日大東文化大学の国際交流センターを通じて、魏さんとのインタビューが実現しました。

第4節 大東文化大学留学生インタビュー

日時：2019年7月5日(金) 午後1時30分～2時30分

場所：大東文化大学 国際交流センター

私たちは大東文化大学を訪問し1時間ほどのインタビューで、日本での暮らしの様子など滑らかな日本語でたくさん聞くことができました。市内の洋服屋でアルバイトをしたり、一人で旅行に行ったり積極的に行動し日本における学生生活を楽しんでいるようです。魏さんの希望は、長期のホームステイ、日本の文化に触れたい（茶道・華道など）、歌舞伎や相撲観戦などのツアーがあれば参加



[優勝した魏興也さん]



[入賞者記念写真]



[インタビューの様子]

したいなどです。

日本については好印象・好感を持っていて嬉しく思いました。

魏さんは7月いっぱいまで帰国し、母国北京の大学を卒業後は日本で旅行関係の仕事に就きたいと熱く語っていました。日中友好のためにぜひ実現できるとよいと思います。



[記念写真]

第5節 大東文化大学留学生アンケート

アンケートは、大東文化大学留学生14人の方に答えて頂きました。

日本語は来日前に母国で学んでいる方が13人います。日本語のレベルも上級レベルが6人、日常会話レベルが6人、基礎レベルが2人です。アンケート回答欄には、漢字を使い上手な日本語で答えて頂きました。

ただ、残念なのは国際交流協会を知っている学生は少なかったことでした。これからさらに増え続けると思われる留学生に対して私たちももっと積極的に活動したいと思えます。

アンケート集計結果

1. 性別・国籍	男性（8人）女性（6人）・中国（9人）韓国（2人）台湾 タイ ドイツ
2. 学年と専攻	1年（5人） 2年（2人） 3年（5人） 4年（2人） 日本語学科（5人） 日本文学（5人） 経済 社会学 国際文化
3. 日本の滞在期間	1年未満（4人） 1年～2年未満（8人） 2年以上（2人）
4. 留学先を日本に決めた理由	日本・文化に興味がある（7人） 日本語専攻だから（4人） 奨励金・留学生支援制度がある 声優・ファッションに興味がある
5. 日本（日本人）の良いところ（複数回答）	真面目・礼儀正しい（12人） 親切・やさしい（12人） 生活しやすい 景色・空気がきれい
6. 日本（日本人）の好きになれないところ（複数回答）	真面目すぎる 電車が混んでいる 歩行者が遅い クレジットカードが使えない店が多い
7. 日本語をどこで学びましたか	母国（4人） 母国と日本（9人） 日本（1人）
8. 日本語のレベル	基礎レベル（2人） 日常会話レベル（6人） 上級レベル（6人）

9. 母国語、日本語以外で話せる外国語 英語（11人） 韓国語（1人） フランス語（1人）
10. 好きな日本の料理・食べ物（複数回答） ラーメン（6人） 寿司（5人） 天ぷら うどん うなぎ
11. 食べられない日本の料理・食べ物（複数回答） 刺身（6人） 納豆（3人） 寿司 うに 味噌汁 やきとり
12. 日本で苦労したこと・とまどったこと アルバイト（4人） 交通機関 銀行取引 ゴミの分別
13. 日本の習慣で母国ともっとも異なる点 交通が便利 トイレにトイレットペーパーがある 就職活動 携帯をマナーモードにする 刺身は食べない
14. どうしても慣れない日本の習慣 ゴミの分別 銀行の土日休み 裸で入浴 正座 電車内が静か
15. 帰国しても継続したい日本の習慣 電車のマナー（3人） 時間厳守 ゴミの分別 礼儀
16. 日本に広めたい母国の習慣 銀行休みなし 電子決済 早く歩く 本当の中華料理 円卓で食事
17. 日本の文化で興味のあるもの アニメ 茶道 着物 祭り 食べ物 華道 三味線 文学
18. 地域の行事に参加していますか？ 参加している（6人）・・・祭り（3人） 参加していない（8人）
19. HIFA（国際交流協会）を知っていますか？ 知っている（1人） 知らない（13人）
20. 卒業後の進路希望 帰国する（6人）・・・就職（4人） 帰国しない（7人）・・・就職（6人） 大学院（1人）

第6節 日本語教室（うちわ手作り体験）

日時：2019年6月30日（日） 午前9時30分～12時

場所：市民福祉センター

東松山市国際交流協会では、日本語を学びたい外国人を対象に、無料の日本語教室を開催しています。現在、フィリピン・ベトナム・ブラジル・中国など、様々な国から来た外国人が日本語の勉強に励んでいます。また、日本語を学習するだけでなく、交流の場として、受講者とボランティアが共に楽しめる教室を目指しています。

日本語教室は日曜クラスと水曜クラスがあります。2018年度は、日曜クラスが49回1,126人、水曜クラスは43回700人が受講しました。1回平均の受講者は約20人です。協会のホームページには、2019年度の「外国人住民向け日本語教室のご案内」および「日本語教室スケジュール」が日本語・スペイン語・ポルトガル語・英語・中

国語で掲載されています。日曜クラスは45回、水曜クラスは42回開催される予定です。

私たちA班は、日曜クラスに参加させて頂きました。この日は通常の日本語教室ではなく「うちわ手作り体験」が行われました。参加者はスタッフ・ボランティア15人、ベトナム人10人、中国人4人、インドネシア人3人、イラン人1人、アメリカ人1人、私たちA班も各テーブルに分かれ楽しく手作りうちわを作成しました。



[うちわ作り]

うちわには、日本のマンガ・富士山・友達の名前などが上手に描かれていました。そして、日本語をよく話せないベトナムの人が、挨拶の代わりに母国の笛でベトナム民謡を披露してくれました。また、うちわ作りに参加しないで日本語の勉強をしている人も数人いました。

同じ国の人が1つのテーブルに集まると母国語が飛び交うこともあります。日本語を学習するだけでなく、学習者とスタッフが楽しめる教室は、交流の場として大変役立っていると思います。



[参加者記念写真]

第7節 ふじみの国際交流センター（FICEC）訪問

日時：2019年7月10日(水) 午後2時～3時30分

場所：ふじみの国際交流センター

私たちは東松山市国際交流協会の事業に沿ってグループ学習活動を行っているが、県内で活動内容が充実していると評価されている「ふじみの国際交流センター」を訪問することにしました。

「ふじみの国際交流センター」(FICEC ファイセック)は富士見市、ふじみ野市、三芳町を中心に暮らす外国籍の人々への協力、支援およびそれぞれの共生に向けて活動する拠点として、1997年に発足した、埼玉県指定・認定NPO法人です。

事業内容

自立支援	悩み事、生活相談	子育て・教育、住宅、入管などあらゆる相談可 外国人ボランティアの協力で母語での相談可
	シェルター	埼玉県委託事業として実施 緊急避難の宿泊施設の提供・再出発の支援
	日本語教室	日本の生活に早くなじんでもらうための日本語を学ぶ教室 無料
	国際子どもクラブ	在日外国人の子どもの日本語と学習の支援 小1～中3、高校生、学校に行っていない青年が対象 無料
	外国人のためのパソコン教室	受講者のレベルに合わせた学習 第2、第4（木）実施 1回300円
多文化共生	多言語情報誌	「インフォメーションふじみの」7カ国語の外国人向け生活情報誌を編集し、隔月で発行 無料
	ホームページ・Facebook	日本語ページ・外国語ページ・外国籍市民のための生活ガイドで広く情報を提供
	翻訳、通訳	7カ国語（英語、中国語、韓国語、タガログ語、ポルトガル語、スペイン語）で対応 有料
コミュニケーションと講師派遣	国際理解講座、人権講座	小・中学校や各施設に出向いて、スタッフや外国人メンバーが講座や講演を行う。有料
	インターンシップ	高校生、大学生の授業の一環として、インターンシップを受け入れ、社会体験や研修に協力 有料
	ニュースの編集、発行	季刊誌「ハローフレンズ」の編集、発行
	多文化交流サロン	日本人と外国人が出合い、集い、語り合える場所
	その他	外国人スタッフによる料理教室、行政、関係機関団体、大学との連携と協働、社会への提言、各種ネットワークへの参加、協力、地域の祭りやイベントなどへの参加



[ふじみの国際交流センター]



[石井理事長(左)とスタッフの人たち]

こういった様々な活動の中で有料の行事などから収入を得て事務所の家賃の支払いはできてますが、働くスタッフの方達への報酬は厳しい現状とのことでした。石井理事長の目標として、「多文化が未来を拓く」というスローガンの下、会員・サポーター

ー（1口1,000円出資者）を強く募っているという想いが伝わってきました。

県内の東武東上線沿線地域には2万人以上の外国籍の人達が生活しています。その数は人口の約2%になります。その中には、言葉、医療、教育、法律の問題など様々な面で不利な立場のまま取り残されている人も多いのです。

この街に暮らす外国人の支援は、今後ますます増えると思える今、相互理解と友好親善を深め、文化と福祉の向上に寄与することを目的に活動しているNPO法人であることがわかりました。

発足した経緯は、石井理事長が任意で英語教室を開いていたことが始まりとのことでした。その教室が反響を呼び、地域の外国人から要望があり、移住している人たちに向けて運営していく流れが、この国際交流センターの立ち上がりとなりました。

そういった地道な活動が土台となり、今に至るこのNPO法人の歴史も感じられ、協力するスタッフの方々の熱意に感動しました。

第8節 日本語交流タイム（ゆかた祭り）

日時：2019年7月20日（土）午後1時30分～3時

場所：市民福祉センター

日本語交流タイムの企画「ゆかた祭り」が開催されました。外国の方は17人参加し、家族連れの方が多かったです。

好みの着物と帯を選んで、ボランティアとスタッフに着付けをしてもらっていました。浴衣を着るのは初めての人が多く、服の上から着たので多少苦しくきつかったようですが、着付けが終わった後はお互いの姿を見て写真を撮ったりして楽しんでいました。日本の着物文化を学んでくれたと思います。

着付けの後はホールで、輪になり東京音頭を練習して踊りました。最初はおぼつかなかったけれども直ぐに踊れるようになりました。家族や友達が笑顔で写真を撮りあっていました。私たちも笑顔になり嬉しかったです。また子供たちは待っている時に折り紙を教わって楽しんでいました。

私たちが用意したアンケートは10人の方に回答頂きました。

日本語の読み書きがよくできない親も多かったので、アンケートは聞き取り調査の方が良かったかもしれません。（反省）改めて言葉や、文化の違いに気づかされ、お互いに理解することが大切だと思いました。

これを機会に町のお祭りやイベントに多くの人に参加してくれるといいですね。



[盆踊り]



[折り紙]

結果は以下の通りです。

No.	質 問	解 答 欄
1	性別	男性 2人 女性 8人
2	国籍	ベトナム、チリ、ブラジル、ペルー、台湾
3	学生・一般・子供	学生 2人 一般 6人 子供 2人
4	ゆかた祭りを何で知りましたか？	ポスター
5	他の祭りや行事に参加したことがありますか？	参加したことある 4人 参加していない 6人
6	着物または浴衣のことを知っていましたか？	知っていた 5人 知らない 5人
7	日本の文化で知っているもの	端午の節句柏餅、花火大会、着物、お茶
8	コメントをお願いします	ゆかた祭りが楽しかったです

第9節 食文化交流会（手打ちうどん）

日時：2019年7月27日（土）午前10時～午後3時

場所：野本市民活動センター



〔男性も頑張る！〕

料理をとおして様々な国の暮らしの中に生きる異文化を体験し外国人との交流を深めよう！がコンセプトの食文化交流会が行われました。

埼玉県の郷土料理の一つ「冷や汁うどんを食べて暑い夏を乗りきろう」のテーマを元に開催されました。冷や汁うどんはこの時期には最適で、日本の暑い夏を乗りきるための栄養バランスがとても良く、簡単に美味しく食べられる郷土料理です。外国から来た方には見た目や味に馴染みが無く「冷や汁？」

に戸惑っていたが、「ゴマが入って香ばしく美味しい」と言っていました。

中国から来た「張さん親子」の話では、日本のように粉をこねた後寝かさずに塊のまま持って鍋に削り落として茹で上げる。それを丼にあげ、蒸した鶏肉などをうどんに乗せ汁をかけて食べるそうです。

汁と言っても日本のように、出汁をとらず、ラー油や辛い香辛料などを麺に絡めて食べるとのこと。中国も日本も小麦粉をこねることが基本だが、その後が大きく違うことが分かり、中国でも日本でも麺を扱うには技術を伴い、それには多くの練習が必要であることが分かりました。

外国の人と接することで、同じ麺でも食べ方に大きな違いがあるのを知り、他の国の人からも麺と汁について知りたいと思いました。



〔見事な手打ちうどん！〕

参加してみて、料理の品数が多く、調理内容も複雑で作業手順が難しく時間がかかったので、品数を少なくして、ゆっくりと料理の説明を聞きながら味わい、交流する時間が欲しかったです。

今回は、東松山のお祭りの日と重なり外国人の参加が少なく国際交流としては寂しいイベントでした。



[うどん作りメンバー]

第10節 子ども英会話

日時：2019年8月16日(金)・8月23日(金) 午前10時～11時30分

場所：東松山市総合会館

参加者：8/16 43人、8/23 49人

夏休み中に2日間、小学1～4年生を対象とした子ども英会話が開催されました。小学校での英語教育開始が決定してから、毎年人気のイベントで子供たちも楽しみにしているようです。親たちも熱心で予約受付はいつも短時間でいっぱいになってしまおうそうです。

クラスは女性ALT(外国人補助教員)2人による、すべて英語による学習でした。自己紹介、ダンス、数字かるたなど、子供たちは楽しそうに参加していました。あまり英語に慣れていない子には友達や周囲にいるボランティアが補助して一緒に活動しました。



[英語でダンス]



[リスニング]

このような子供たちへの英語活動は、子供の時から英語に慣れ、外国語への抵抗感をなくして将来の国際的な活動に役立つものと確信しました。



[ゲーム]

第3章 小中一貫教育特認校制度

東松山市では2016年4月から、桜山小学校と白山中学校は小中連携教育が、また2019年4月からは小中一貫教育特認校として「9年間で子供を育てる教育」とともに「英語に強い子供を育てる教育」が実施されました。

私たちは、この小中一貫教育特認校で行われている英語教育に興味を持ち、子供の将来の国際化に役立つと考え調べてみました。

- 5月10日(金) 学校教育課 講座 (小中一貫教育について)
- 10月9日(水) 桜山小学校 英語授業参観
- 10月17日(木) 白山中学校 英語授業参観

第1節 小中一貫教育特認校制度についての講座

日時：2019年5月10日(金) 午前11時～11時45分

場所：きらめき市民大学 研修室

講師：学校教育課 課長 小林聡先生

国際交流において語学力は一つのポイントになると思います。東松山市では以前からALTを小・中学校に配置して英語活動を行ってきました。

2019年4月から実施されている小中一貫教育特認校制度というのは小・中学校9年間の学びと育ちの連続性を重視した教育を行うことをねらいとし、市内全域から転入学が可能です。

英語教育についてはALTが両校に専属配置され



[小中一貫校募集要項]

ていて、英語以外の授業にも参加していることから英語に触れる機会が多くなっています。またALTと一緒に昼食を摂る「Eランチ」や子供たちが英語を使ったチャレン



[小中一貫教育特認校制度講座]

ジ学習など、英語を使う活動も設定されていて日常的に英語に触れています。白山中学校では少人数・専属的な教育体制をとり、英検合格を目標に学習しています。実績としては中学校の学習調査の結果で英語力が向上しています。

桜山小学校と白山中学校の英語授業参観を希望し、下記のように実際に授業を見せていただき、その優秀性を実感してきました。

第2節 桜山小学校 英語授業参観

日時：2019年10月9日(水) 午後1時45分～4時

場所：桜山小学校

ウェルカムボードで歓迎された私たちは3階の英語教室へ通されました。壁には野菜、果物の名前、疑問詞などの英語に加えて、オーストラリアの写真、ハロウィーンのキャラクターなど整然と貼られていて自然に英語になじむよう工夫されています。

3年1組の21人の児童が口々にハローと言いながら教室に入ってきました。担任の先生が主体になって、1時限の授業はすべて英語で、挨拶の練習・寿司の人気ランキング・サラダの材料・野菜の並べ替えなどを楽しそうに学習していました。小学3年生でありながらも、多くの児童が先生の英語の質問に英語で答えているのが驚きでした。

そして特筆したいのは授業の最後に子供たちにアンケートを書かせて、授業の振り返りをさせるとともに、理解度・興味・得意・不得意などの情報を次回の授業に反映させていることでした。

授業参観後、担任の先生とALTとのミーティングを設定いただき、英語授業に対する意気込みをお聞きすることができました。ここで英語の教育を受けた後、一貫教育特認校の白山中学校で勉強すれば充実した英語の実力が付き将来の国際交流、国際事業に必ず役立つと思います。



[桜山小学校 英語授業]

第3節 白山中学校 授業参観

日時：2019年10月17日(木) 午前8時30分～10時

場所：白山中学校

この日の授業は、担任の先生とALT、生徒29人でした。

先生と生徒の会話の全てが英語で進められて、テーマは

- ・疑問詞(7W1H)を使って、「Q: How are you? A: I'm fine.」といった簡単な会話
- ・2人ペアになって、Free Talk でできるだけ長く会話を続けるシーン
- ・聞き直す時に使う「Really? (本当ですか?)」、うなずく時に使う「I see. (わかった)」といったもので、生徒たちの英語の会話はスムーズで楽しそうに聞こえてきました。その光景は、私たちの時代の英語授業とは比較にならないほど活気に満ち溢れたものでした。

このようにネイティブなALTの参画する授業は、週2時間、年間140時間行われます。これからの国際社会に向けての英会話は不可欠なコミュニケーションツールです。豊かな学力を目指し、英語に強い子供を育てる教育方針の下、先生たちの熱意を強く感じ、生徒たちの未来に期待のできる授業参観でした。



[白山中学校 英語授業]

第4章 スリーデーマーチに見る国際交流

10月27日(日) ワンポイント英会話 (台風19号の影響により中止)

11月2日(土)～11月4日(月) スリーデーマーチ (台風19号の影響により中止)

第1節 はじめに

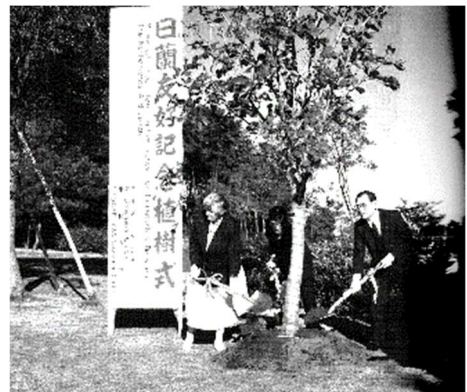
東松山市の主催しているスリーデーマーチでは、近年外国から数百人という人々が参加しています。東松山市開催第1回の外国人参加者は、オランダ大使を始め数十人でした。その後国際組織への参加や国際ウォーカーパスポート・認定基準の規約などが整ってくるに従い参加国が増え、人数も多くなり大勢の外国の人々が参加するようになりました。



[オランダ国旗と一緒に]

更に開催10年(1987年)には、オランダ73人、韓国20人、ソ連から初参加を見て21カ国148人の参加人数になり東松山市内、郊外のコースを歩く姿が見られるようになりました。

第1回開催から40年、大勢の外国の方々を迎えている東松山市に於いて、どのような国際交流を行い、支援が行われたのかを調べることにしました。



[日蘭友好記念植樹式]

第2節 40年間の支援活動の歩み

(1) 言葉への対応

外国の人への言葉は英語での対応でした。最初の頃は英語の得意な市の職員が対応をしていました。その後、中学校・高校の英語の先生方にも通訳の協力を得ました。しかし、参加者が増えると職員や先生方だけでは対応仕切れなくなり、市民のボランティアを募りました。最初の頃は予定した人数は集まらなかったが、近年では50人以上の市民の協力を得ています。

英語だけでなくオランダ語・中国語・フランス語・イタリア語等のボランティア支援者も増えてきました。

(2) 宿泊施設の対応

東松山市としては、当初体育館や公共施設を参加者に提供していたが、特に外国の人への宿泊の支援はありませんでした。しかし、増える外国人の対応として民泊家庭の公募をして9世帯が26人を受け入れました。最初は、英語が堪能の人がいたり、外国での経験があったりした家庭や不安はあるが出来る限りの協力をしたいと申し出た家庭でした。



[外国人ウォーカーと共に]

民泊は外国の人に好評でしたがその後の協力家庭はあまり増えませんでした。その理由としては、時代の背景として外国の人に対しての生活習慣や食事の情報が少なく不安があった為でした。そこで市は説明会を開き民泊家庭の体験談などを具体的に説明したり、生活習慣の違いを分かり易く図にしてまとめたりして不安解消に地道な活動をしました。

一番の問題は食事でしたが、日常の食事を喜んで食べる事などの実態を根気よく説明し家庭での宿泊体制を整えてきました。その結果多くの家庭が協力してくれるようになりました。

(3) 学校の対応

小・中学校のスリーデーマーチへの参加

秋の遠足をスリーデーマーチへの参加に変更したのも国際交流の支援の一環でした。遠足だけでなく家族や友達との参加は外国人ウォーカーと歩き触れ合うことで自然な交流の機会を増やすことになりました。この時に親しくなった外国の人とお互いの国を歩くようになり何年も続いています。

(4) おもてなし対応

市では、スリーデーマーチに来た外国の方を各小・中学校に体験学習として招き交流の時間を設定しました。

小学校では昔の遊び体験で剣玉、お手玉、羽子板、凧揚げ、めんこ、こま回しなどを体育館で児童と一緒に遊びました。

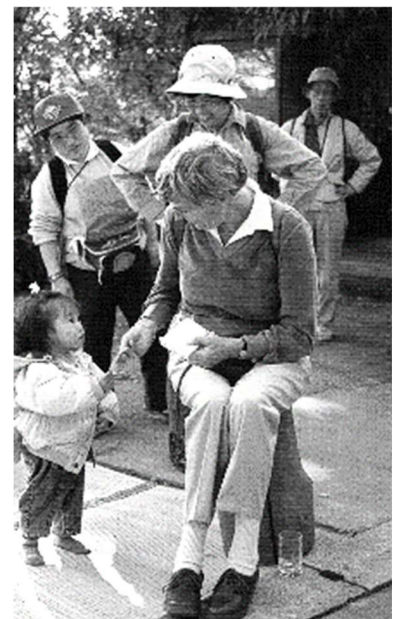
中学校では日本古来の体験で習字を各部員が簡単な英語を交えながら教えました。その後高校でも茶道、華道など部員が本格的に教えたので真剣に取り組みました。

その他では和太鼓・オカリナ演奏・鼓笛隊のパレードなどで出迎えました。太鼓の技と音に感動し、小学生が整列して歩きながら演奏する姿に大きな拍手がありました。このように、小学生から高校生まで力一杯のおもてなしをして迎えています。

(5) 市民のおもてなし歓迎対応

各地域では焼き鳥・甘酒・豚汁を提供しました。餅つき体験を通して日本食を知ってもらう場を作りました。ウェルカムパーティー場や各ブースではコーヒーやクッキー・焼き芋を出し、地産の梨を農家の方が提供しました。

長年自宅の庭を開放し湯茶や菓子で接待する休み処を提供したり、大輪の菊を飾って出迎えたり、道案内をしたりと市民総出の自発的な行動は多くのボランティア活動に繋がって行きました。



[こんにちは]



[習字体験]

田んぼのあぜ道には多数のかかしが手を挙げてのウェルカムポーズに、手を振って応えている姿は微笑ましいものでした。

このような活動を通して少しずつ外国の人との距離が短くなり、親しくなれる機会となっています。

(6) 外国人向けの交流開催

曹源寺の座禅で日本独特の静かさと厳しさの‘行’を体験しています。

日本型食生活PRイベントが市内の店で行われ、日本食は健康に良い点に関心を持ち、その美味しさにも興味を示し活発な意見交換になりました

女子高校生の書道パフォーマンスは、はかま姿で音楽に合わせ、身体を動かし、筆をふるう姿は大会の名物になり喜ばれています。

このような支援活動は、日本の文化や風土を知らなかった外国の人に日本を知ってもらう良い機会になりました。

(7) 国際交流の広がり

日本に滞在している研修生が自国の民芸品を販売し、利益を各国農村の自立の為に使ってもらおう交流をしています。その他に仕事や勉強に来ている日本国内の外国の人の参加が増えています。

(8) 受け継がれるボランティア活動

子どもの頃のボランティア体験が記憶として残りその後の支援活動になって、道案内やクリーン活動・案内板の設置など積極的に行い、今では高校生が中学生にリーダー育成をしています。今では市内300人の中学生がアイデアを出し合いながら活躍し、それは小学生にも受け継がれようとしています。活動を通して外国の人に案内をしたり、質問に答えたりしています。市では事前に簡単な会話ができるよう英会話の講習をしていました。それが今の「ワンポイント英会話」事業になっています。

(9) スリーデーマーチを支えるボランティア

市では、事前にボランティアの人を担当場所毎に募集しています。

- ・東松山駅前一地図によるコース別の道案内
- ・コース担当—それぞれのコースを一緒に歩く
- ・中央会場担当—外国人ウォーカーの人が困っている事に手助け
- ・コーヒー、菓子の販売（事前にコーヒーの淹れ方、菓子の作り方を練習）
- ・中央広場では折り紙を教えるボランティアの人がいて簡単な会話で交流しています。



[にこやかに歩く]



[お点前]



[いろいろな国から]

このような活動を支えているのは、東松山市国際交流協会が開催している行事の一つですが外国の人々が楽しく・気持ち良く3日間を歩いてもらえるように、沢山の市民と多く触れ合えるように多くの活動計画を立てています。スリーデーマーチを成功させるには市民としてボランティア活動に参加することが大切だと思いました。

第5章 課題研究を終えて

第1節 まとめ

「国際交流について、東松山市がどう取り組んでいるか」を実際に東松山市国際交流協会の事業に参加し、その実態を調べました。

本年（2019年）はラグビーのワールドカップが日本国内で開催され、試合内容以上に各国の選手やメディアから称賛されているのが、キャンプ地で外国選手を国旗で歓迎し、地元の子供たちが出場国の伝統的な踊りや聖歌の合唱したことが各国で報道され大きな話題となりました。

さらに来年（2020年）は第32回東京オリンピック・パラリンピックが国内で開催され、海外の関係者に対し国を挙げて「おもてなし」の対応が求められています。

今回の研究課題を通して現在の東松山市の国際交流を知ることができました。この体験が今後の活動に生かされ、外国人との交流の懸け橋となれるように行動したいと思います。

協会と大学、中学、小学校など、親切に対応していただき、初期の目的を達成することができました。感謝申し上げます。

第2節 ご協力をいただいた機関（順不同）

東松山市役所 総務課、学校教育課、スポーツ課

東松山市国際交流協会

大東文化大学

桜山小学校

白山中学校

ふじみの国際交流センター

第3節 参考文献・ホームページ

(1) 文献

日本スリーデーマーチ、大会の歩み 東松山市役所

(2) ホームページ

東松山市役所 <http://www.city.higashimatsuyama.lg.jp/>

東松山市国際交流協会 <http://www.hifa1998.jp/>

ふじみの国際交流センター <http://www.ficec.jp/>

法務省（在留外国人統計） http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html